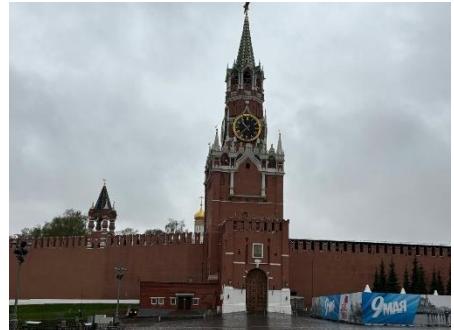


モスクワは大変魅力的な街である。まず、一年を通じて建物や街のいたるところがライトアップされる。冬になると、日の落ちるのが早くなるが、それと同時に建物が灯りで美しく映し出されるのだ。もちろん、昼間見ても芸術的な建物が多いモスクワだが、光をあてられ一層幻想的な姿に浮かび上がる。

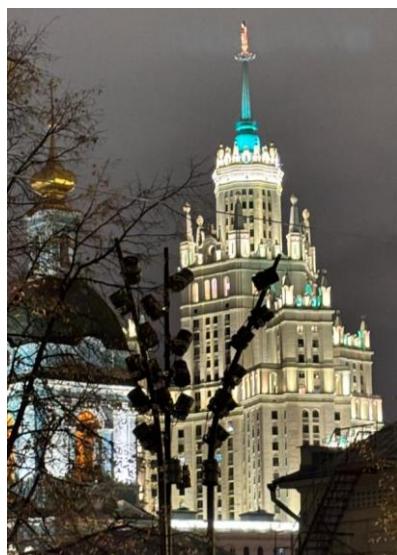
モスクワの街を歩くと、ひときわ高くそびえる塔が見られる。一つは、私の住んでいる住宅から見えるモスクワ大学の塔。この建物は、「セブンシスターズ」と呼ばれるそうで、スターリン様式で設計された高層建造物だそうだ。モスクワ市内に同様の塔が7つある。7つのうち6つの塔の先端には星がつけられ、美しく、凛とした姿を際立たせている。



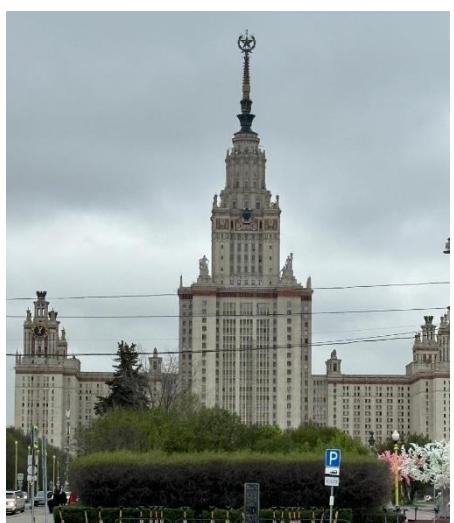
左上の建物はロシア外務省で、先端には星がつけられていない。これは、星をつけるための強度が足りなくてつけられなかったそうだ。



右上の建物は、クレムリン広場の要塞の一部だ。この広場の手間にワシリイ寺院がある。モスクワ一番の観光スポットだ。



左下の建物はコテルニチエスカヤ堤防ビルというものらしい。夜にはひと際、美しくライトアップされている。



右下はモスクワ大学内にある塔。夜はもちろん、ライトアップされ大変美しい。

それ以外に、ラディソンホテルとヒルトンホテルが改修を施し、この建築様式のまま今に残されている。

北国に住む人は寡黙で不愛想と一般的に言われる。厳しい冬を乗り切るためににはぐっと寒さをかみしめる必要があるのだろう。ここモスクワの人々も一見とっつきにくい印象を与える。特に、大手のスーパー「アシャン」のレジに座る女性は強い。レジカウンターはベルトコンベアのように少しずつ動いており、そこに品物を乗せるのは客。そして、バーコードで読み取った品を素早く袋に入れるのも客。多くのレジ係は横柄な態度（私にはそう見える）で、「袋は（いるか）」「ポイントカードは（あるか）」「カード（で支払う）か？」と早口で聞かれるので、それに対して「ダー（はい）」「ニエット（いいえ）」と即座に答える。そのあと、まだ銀行口座を開設していない私はデビットカードを持てないため、常に支払いは現金。これが「ナリーチミニ」と言うのだが、初めのうちはなかなかこの言葉が出てこず、「キャッシュで」とか札を見せたりする。おまけにたくさんあるレジのうち、いくつかは現金払いが不可のレジで、品物の会計を終えた後で、現金を出して怒られたことがある。こっちは客だぞと腹を立てるのは日本の解釈で、あちらにしてみれば、忙しいのにこいつは何を考えているのかと言いたげな表情。私は慌てて品物を全部抱え、別のレジに並び直さねばならない。こんなときほど、言葉が通じない悔しさを痛感することはない。この経験は私のロシア語習得に拍車をかけることとなった。